

博士論文の審査結果の要旨

専攻	保健医療学専攻	分野	理学療法学分野
学籍番号	15S3030	院生氏名	鈴木 あかり
通学キャンパス	大川キャンパス		
論文題目	地域在住高齢者に対する咳嗽力改善プログラムの効果		
審査結果(枠で囲む)	合格 不合格		
<p><審査結果の要旨></p> <p>1. 研究の概要</p> <p>1) 研究の意義・目的、方法、結果・結論</p> <p>本研究は地域在住高齢者に自宅でできる咳嗽力改善プログラムを考案しその効果を検討している。研究は2部で構成され、研究1は高齢者40名を介入群と対照群に分け、介入群は自宅でプログラムを週5日以上1か月実施し、その前後に咳嗽力と呼吸機能を測定した。線型混合モデルと各項目の変化量の2群の比較の結果、介入群のみ介入後に咳嗽時最大呼気流量(CPF)と最大吸気圧(MIP)が増大し、有意差を認めた。研究2では研究1の対照群もプログラムを実施した。1ヵ月以降もプログラムを週1回は継続するように指導し、介入前後、6ヵ月後、12ヵ月後に測定を行った。介入後もプログラムを継続した対象者における反復測定分散分析の結果6ヵ月後にMIPの増大を認めた。本研究の結果から、地域在住高齢者に対する咳嗽力改善プログラムはCPFを有意に増大させるが、その長期効果を得るためにはさらに工夫改善が必要であった。</p> <p>2) 研究方法、論証、論文形式の適切さ</p> <p>本研究は国際医療福祉大学倫理委員会の承認(14-Ig-21)の承認を得ており、倫理的問題はない。また方法論、論証の過程、論文形式についても博士論文として十分であった。</p> <p>3) 知見の新規性と価値</p> <p>本研究の新規性は地域在住高齢者に1年間の長期にわたり咳嗽力改善プログラムの効果を検証していることにある。高齢者の死亡原因として誤嚥性肺炎は高い比率を占めるため、その予防に貢献する研究として高く評価できる。</p> <p>2. 審査経過</p> <p>審査会は1回(平成29年12月5日)開催され、審査員より用語の定義やデータの分析について質問があり、論文の修正を求めたところ適切に修正された。</p> <p>3. 口頭試問の結果</p> <p>口頭試問において適切に応答した。</p> <p>4. 合否</p> <p>以上の結果から、審査会の審査員全員は本論文が著者に博士(保健医療学)の学位を授与するに十分な価値があるものと認めた。</p>			
論文審査担当者	主査	爲数 哲司	
	副査	高野 吉朗	
	副査	中原 雅美	